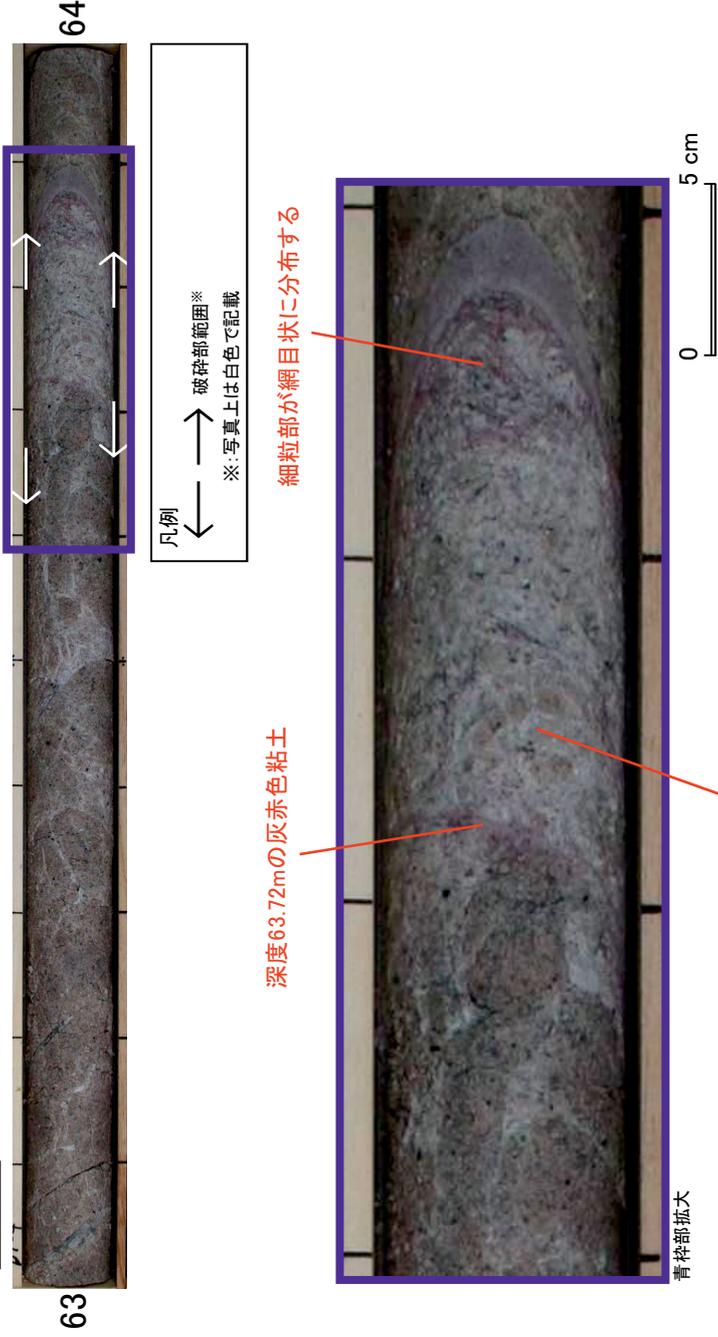


- ・深度63.67～63.83mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、全体的に軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度63.72mの「灰赤色粘土」と記載の箇所については、幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、軟質で、周囲のカタクレーサイトとの境界が漸移的で直線性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。含まれる細粒部は、変質したカタクレーサイト中の粘土脈である。
- ・深度63.83～63.88mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度63.88～63.90mの「粘土状」と記載の箇所については、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められないが、硬質である。これらのことからカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●63.67～63.90m：破砕部
 63.67～63.83m：粘土混じり岩片状部 (Hj)
 上端45°、下端60° ともに一部不明瞭で連続。径5～20mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片と岩片間を幅1～2mmの軟質な白色粘土脈が網状に分布する。また、63.72mに傾斜45°で幅2～3mmの軟質な灰赤色粘土を挟む。粘土の境界は漸移的で直線性に乏しい。全体は淡い緑色を帯びた灰白色を呈する。
 63.83～63.88m：粘土質礫状部 (Hb)
 上端60°で不明瞭、下端70°で直線的にシャープに連続。径5～10mmの一部粘土化、一部硬さ「E」の岩片を多く含み、基質中に幅2～3mmの赤灰色の軟質粘土を脈状～レンズ状に含む。軟質。灰白～赤灰色を呈する。幅20～30mm。
 63.88～63.90m：粘土状部 (Hc-1)
 傾斜70°で直線的にシャープに連続する幅5～10mmの硬質な赤灰色粘土からなる。径1mm前後の石英粒をわずかに含む。

コア写真



凡例
 ← → 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

細粒部が網目状に分布する

深度63.72mの灰赤色粘土

細粒部が網目状に分布する

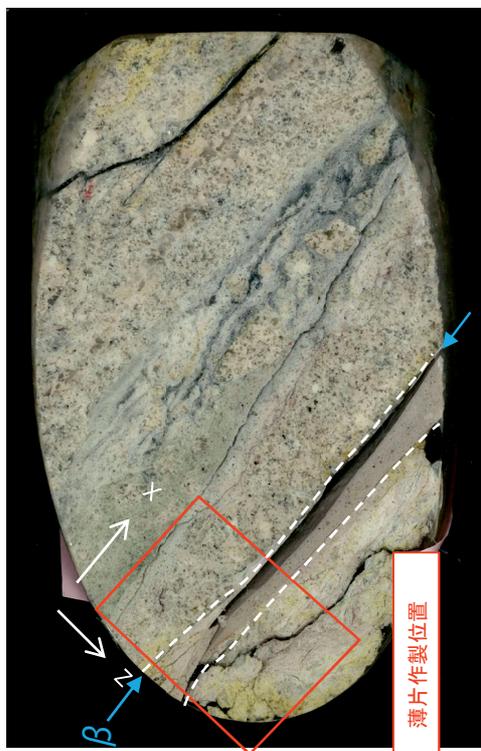
・薄片は断層面 β 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真



※断層面 β は最新活動面

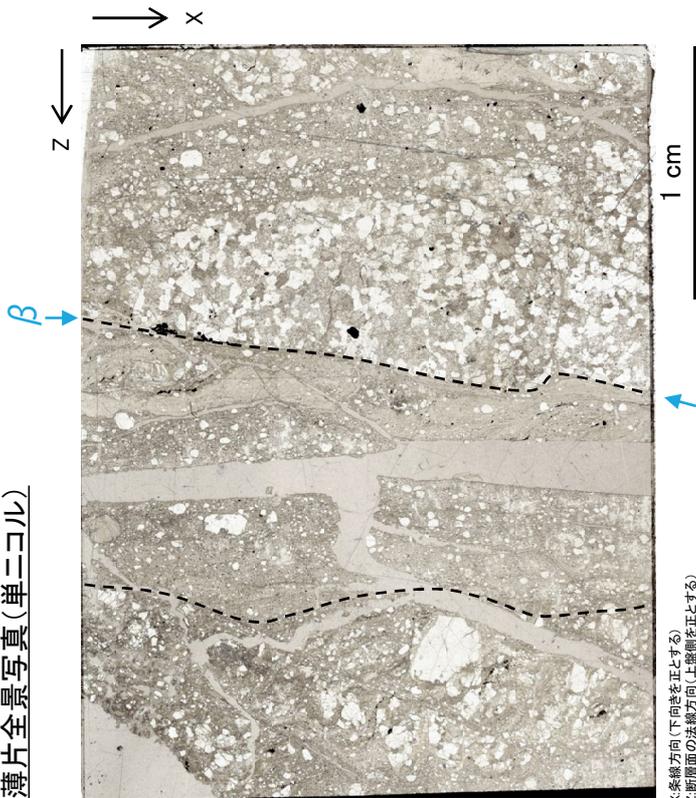
薄片作製位置写真



X:糸線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上強軸を正とする)

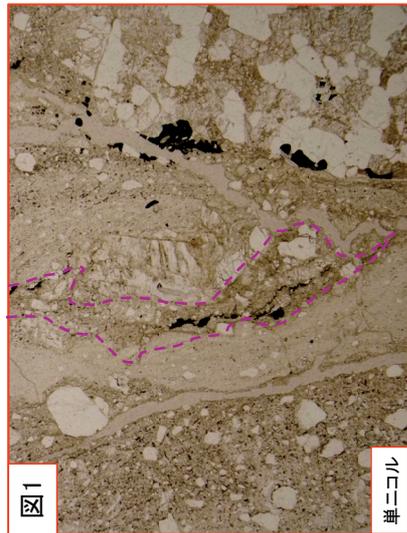
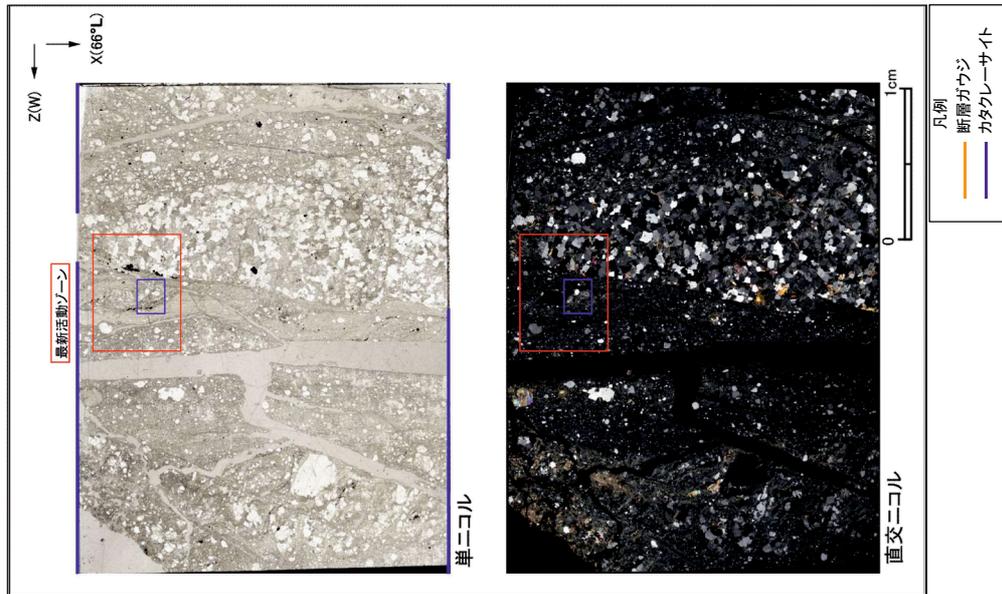
薄片作製位置

薄片全景写真(単ニコル)

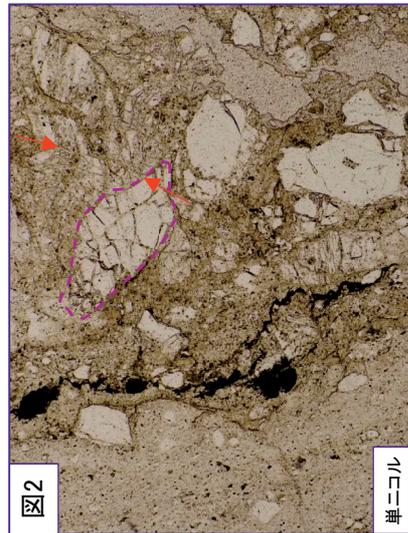


X:糸線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上強軸を正とする)

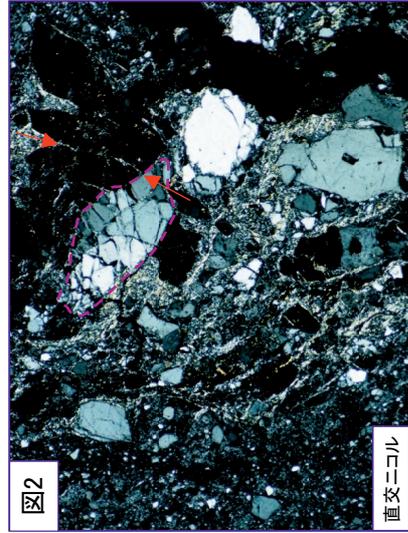
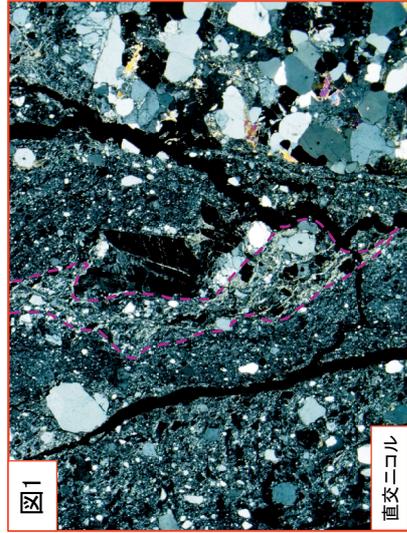
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
 - 断層面に沿った粘土状部の分布は局所的である。(図1)
 - 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
 - 角ばった岩片が多い。(図2)
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
 - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



破線は粘土状部の分布範囲を示す



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



(肉眼観察結果 深度63.90m)

- 肉眼観察では、粘土状部は、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められないが、硬質である。これらのことからカタクレーサーサイトであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 β に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 β は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - 断層面 β に沿った粘土状部の分布は局所的である。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサーサイトの特徴が認められた。
 - 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 - 角ばった岩片が多い。
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由からカタクレーサーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された硬質な粘土状部は、その特徴からカタクレーサーサイトであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサーサイトであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm]	明瞭なせん断構造・変形構造*
無	-	-

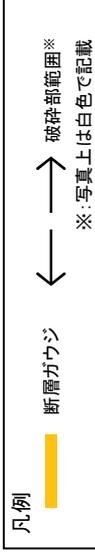
*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

- ・深度12.38～12.86mの「粘土混じり礫状」と記載の箇所については、硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片からなる組織が認められる。これらことからカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度12.86～12.87mの「粘土状」と記載の箇所については、やや硬質で、細粒部の連続性及び直線性が良い。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質は細粒化した岩片からなる組織が認められない。これらことから断層ガウジであると判断した。
- ・深度12.87～12.97mの「粘土混じり礫状」と記載の箇所については、硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質は細粒化した岩片からなる組織が認められる。これらことからカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

- 12.38～12.97m：破砕部（D-1断層Hj）
- 12.38～12.86m：粘土混じり礫状部（Hj）
 上端60°、下端45°でともに直線的でシャープに連続。割れ目は殆んど消滅し、著しく軟質化した径10～30mmの岩片からなる。岩片間に20～70°で幅0.5～1mmの軟質な灰白～灰黄色粘土脈が分布する。全体ににがい褐色を呈する。
- 12.86～12.87m：粘土状部（Hc-1）
 傾斜45°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を少量含む。やや硬質。灰白～灰黄色を呈する。幅5mm。
- 12.87～12.97m：粘土混じり礫状部（Hj）
 上端45°で直線的にシャープに、下端45°で不明瞭に連続。硬質。径5～20mmの岩片主体で、岩片間に幅0.5～1mmの粘土脈を少量挟む。にがい黄褐色を呈する。幅75mm。

コア写真



細粒部は局所的に分布する

細粒部は局所的に分布する



青粋部拡大

0 5 cm

連続性及び直線性が良い細粒部

・薄片は断層面 β 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

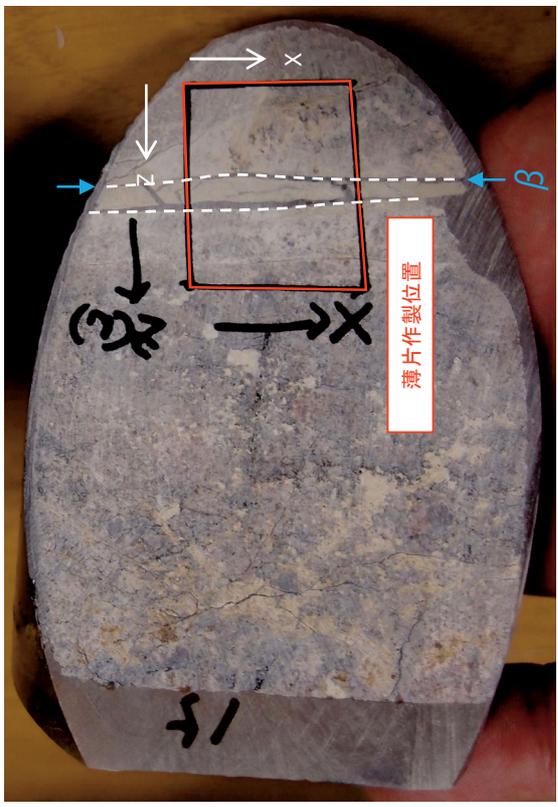
コア写真



凡例
 断層ガウジ
 断層面
 破碎部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

※断層面 β は最新活動面

薄片作製位置写真



凡例
 断層面
 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※
 ※:写真上は白色又は黒色で記載

薄片全景写真(単ニコル)



X:条線方向(下向きを正とする)
 Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

第7.4.4.316図(2) 破碎部性状 H24-D1-2 深度12.38~12.97m (薄片作製位置)

